



2020事業年度環境経営レポート

(対象期間：2020年7月1日～2021年6月30日)



®環境省

エコアクション21
認証番号 0001122

発行日： 2021/8/25

■ 計画の策定(Plan)

(1) 組織の概要

事業所名及び代表者
株式会社コトブキパック
代表取締役会長 下澤 壽重

所在地
本社工場 長野県松本市庄内2丁目7番10号
西南工場 長野県松本市大字今井字松本道7089-3
東京営業所 東京都新宿区馬場下町14番地 翔ビル
物流センター 東京都東村山市恩多町1-13-2 LOG-POAT102 4F

環境管理責任者及び担当者連絡先
責任者 本社工場長 上條 祐輔
担当者 製造部長 坪田 孝史
連絡先 TEL 0263-25-3207 E-mail k-001@lily.ocn.ne.jp

事業活動の概要
紙製緩衝材・ダンボール・紙器・包装材の設計、製造、販売

事業の規模
主要製品生産量
製品出荷額

	本社及び本社工場	西南工場	東京営業所	物流センター
従業員	23人	10	1人	0人
延べ床面積	1080m ²	1039m ²	103m ²	610m ²

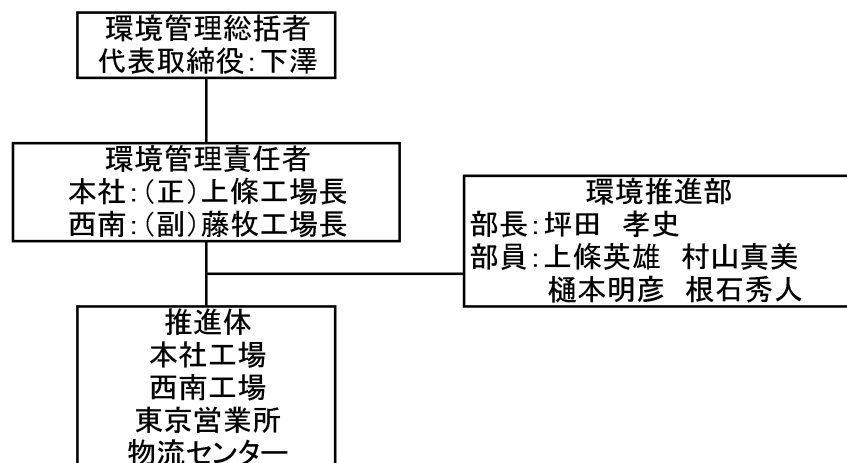
(2) 対象範囲

認証・登録範囲
本社工場 西南工場 東京営業所 物流センター (全組織・全活動)

レポートの対象期間
2020年7月1日から2021年6月30日

発行日
2021年8月25日

(3) 実施体制



(4) 環境経営方針

～お客様の笑顔が見たい～

これが当社の基本です。

お客様に喜んでいただける製品を提供していくための努力と共に、豊かな地球環境を次世代へ継承していけるよう努めてまいります。

株式会社 コトブキパック
代表取締役 下澤 壽重

<環境理念>

株式会社コトブキパックは、段ボール製パレット、紙製緩衝製品、段ボール製品、紙器等の事業活動・製品・サービスを通じて、豊かな地球環境を次世代へ継承することを責務と認識し、地球環境保全と循環型社会の構築を目指した事業活動を行います。

<行動指針>

1. 環境関連諸法規、条例及び、その他の要求事項を遵守するとともに、環境負荷の低減に取り組みます。
2. 電力、水資源、化石燃料の使用削減と省資源活動を積極的に取り組みます。
3. 製品の設計、開発、生産の過程において、廃棄物の排出量削減と3Rに努めます。
4. グリーン購入を積極的に推進します。
5. 環境教育や日常の環境意識の向上を図り、製品やサービスの質の向上に努めます。
6. 社内及び、周辺地域との融和を図り、環境活動を通じて、地域社会との共存を図ります。
7. 環境経営目標を定期的に見直し、継続的な環境改善活動を展開します。
8. 環境経営方針及び、環境保全活動の状況は、全従業員に周知すると共に、適切な形で一般に公開します

制定日： 2019年5月8日

代表取締役会長 下澤 壽重

(5) 環境経営目標及び実績

中期環境経営目標

作成日:2020/8/5 作成日:2021/8/25 作成日:2022//

環境目標項目	基準値 2018年度実績	項目	年度毎目標・達成手段(取組の自己チェックを踏まえて策定)						
			2019年度	評価	2020年度	評価	2021年度	評価	
生産高	334.9	百万円	287.0	—	268.3	—	0.0	—	
二酸化炭素排出量	CO2排出量の削減 (Kg-CO2)	基準年比	99.5%	—	99.0%	—	98.7%	—	
		目標値	91,566	—	91,106	—	90,830	—	
		実績	90,628	○	78,389	○	0		
	電力使用量の削減	基準年比	99.5%	—	99.0%	—	98.7%	—	
		目標値	97,810	—	97,319	—	97,024	—	
		実績	90,479	○	84,736	○	0		
	二酸化炭素排出量 原単位	基準年比	99.5%	—	99.0%	—	98.7%	—	
		目標値	273.41	—	272.04	—	271.21	—	
		実績	315.76	×	292.20	×			
	ガソリン使用量の削減	2019年度見直し	基準年比	99.5%	—	100.0%	—	99.5%	—
		4,870 ℓ	目標値	2,544	—	4,870	—	4,846	—
			実績	3,934.61	×	1,807	○	0	
	軽油使用量の削減	8,957 ℓ	基準年比	99.5%	—	99.0%	—	98.7%	—
			目標値	8912	—	8867	—	8841	—
実績			8,721.15	○	7,881	○	0		
灯油使用量の削減	6,171 ℓ	基準年比	99.5%	—	99.0%	—	98.7%	—	
		目標値	6140	—	6109	—	6091	—	
		実績	6,083.00	○	5,135	○	0		
LPG使用量の削減	143.9 kg	基準年比	99.5%	—	99.0%	—	98.7%	—	
		目標値	143	—	142	—	142	—	
		実績	140.75	○	135	○	0		
用水使用量の削減	387 m ³	基準年比	99.0%	—	98.5%	—	98.0%	—	
		目標値	383	—	381	—	379	—	
		実績	330.27	○	341.6	○	0.0		
廃棄物	一般廃棄物排出量の削減	基準年比	100.0%	—	100.0%	—	100.0%	—	
		目標値	3,529	—	3,529	—	3,529	—	
		実績	481.0	○	1292	○	0		
	産業廃棄物排出量の削減	基準年比	100.0%	—	100.0%	—	100.0%	—	
		目標値	168,270	—	168,270	—	168,270	—	
実績	162,470	○	166,490	○	0				
産廃物の再資源化量	153,770 kg	実績	157,820	—	161,460	—	0	—	
リサイクル率	91%	実績	97.1%	—	97.0%	—	#DIV/0!	—	
化学物質使用量の削減		基準年比	適正管理	○	適正管理	○	適正管理		

注 電力の二酸化炭素排出係数:平成28年度環境省・経産省公表値 中部電力調整後排出係数 0.480 を使用
注 評価「○」:目標達成 「×」:目標未達成を示す。

(6) 環境経営計画

電力使用による二酸化炭素排出量の削減		
目標値	46,713	kg-CO ²
・室内不在時消灯	・昼休憩時消灯	・使用外のIT機器の電源OFF
・冷房温度28℃設定	・暖房温度20℃設定	・冷房時の扇風機使用
・エアコンフィルター清掃	・機械のアイドルストップ	
化石燃料使用による二酸化炭素排出量の削減		
目標値	44,393	kg-CO ²
・アイドルストップ	・法定速度厳守	・1way輸送を無くす
・急発進、急停車を控える	・タイヤの空気圧適正管理	
事業系一般廃棄物、事務所内廃棄物の削減		
目標値	注視測定	
・廃棄物再利用	・コピー紙裏紙使用	・廃棄物分別徹底
・ダンボール、白上質紙100%リサイクル		・製品端材をコピー用紙やメモ紙に使用
産業廃棄物の削減		
目標値	注視・測定	
・廃棄物の分別の徹底	・資材の再利用、リサイクル化	・マニフェストの管理徹底
節水		
目標値	381.4 m ³	
・節水の呼びかけ	・水資源の有効活用	
グリーン購入		
目標値	積極的購入	
・グリーン製品の積極的購入		
化学物質管理		
PRTR対象物質の使用制限		
SDSによる危険・有害物質管理		
作業時のエコ活動		
・作業手順見直し	・作業時間短縮	
・社員教育	・5Sの徹底から作業効率を上げる	
社会貢献		
・月1回の社内外のクリーン活動(ゴミ拾い、草取り、雪かきなど)		



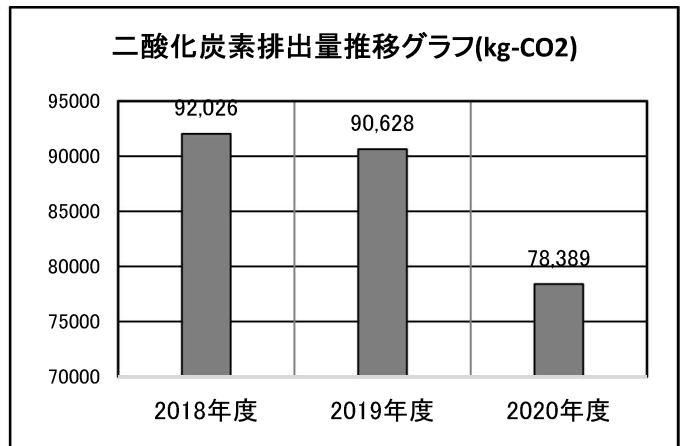
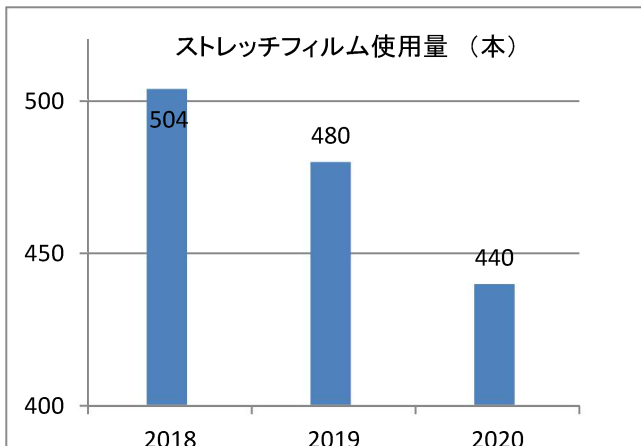
本社工場の近所にある公園の清掃・草刈りの様子

(7) 環境経営計画の取り組み内容の結果と評価

◎よくできた ○できた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価（結果と今後の方向）
電力による二酸化炭素排出量の削減		目標値達成した
・ 室内不在時消灯	◎	残業時間の減少により電気使用量が減ったと思われる。 5S活動によって生産性を上げ、製品1枚にかかる時間を少なくしていく。 引き続き節電の呼びかけをおこなっていく
・ 昼休憩時消灯	◎	
・ 使用外のIT機器の電源OFF	○	
・ 冷房温度28℃設定	◎	
・ 暖房温度20℃設定	◎	
・ 外気の室内取り込み	◎	
・ エアコンフィルター清掃	◎	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減		仕事量の減少により前年度よりガソリン・軽油使用量が減少したと思われる。
・ エコドライブ教育	△	
・ 法定速度遵守	○	
事業系一般廃棄物、事務所内廃棄物の削減		コピー紙の裏紙使用など、再利用を徹底していく。 業務で排出される材料端材をコピー紙や別のものに再利用する
・ 廃棄物再利用	◎	
・ コピー紙裏紙使用	◎	
・ 廃棄物分別徹底	◎	
産業廃棄物の削減		ストレッチフィルムの使用量が減ってきている。廃プラスチック類の廃棄を減らすために今後も減らす努力をする。 材料端材など使えるものは再利用していく。
・ 分別の徹底	◎	
・ 資材の再利用、リサイクル化	◎	
・ マニフェスト管理徹底	◎	
・ 段ボール、白上質紙100%リサイクル	◎	
節水		目標達成。
・ 節水の呼びかけ	○	これからも節水を呼び掛ける。
・ 水資源の有効活用	○	
グリーン購入		事務用品の購入時にグリーン製品か確かめて購入している。 RoHS対応品も確かめて購入する
・ グリーン製品の購入	○	

化学物質使用管理		
・ 対象製品のSDS管理	○	対象製品を安全データシートで安全使用・使用量の管理をしている
製品への環境配慮		
・ 省エネ商品販売	○	製品のキズ防止のためのあて紙などに製品材料端材を利用している。
・ 再生資源の積極的利用	○	
・ 材料端材の活用	○	
作業時のエコ活動		
・ 小集団活動		5 S活動を進め、現場全体が広く使えるようになってきている。
・ 作業手順見直し	○	作業効率を上げることで1つの製品に対する時間を減らすと、CO2削減になることを社員全員で共有し実行していく。 機械の移動を行いなどを作業場を広く使い作業性、荷物の移動など効率を上げることができた。
・ 作業時間短縮	○	
・ 5 S活動 (特に整理・整頓)	◎	
社会貢献		
・ 月1回の社内外のクリーン活動	○	社内外のごみ拾いや草取りを定期的に行っている。



(8) 次年度の環境経営計画

目 標	目標値	活動内容	担 当
電力使用量の削減	97024 kwh	1) 使用外のIT機器電源OFF 2) エアコン(冷房28℃、暖房20℃) 3) 外気の室内取り込み 4) エアコンフィルター清掃 中期目標 5) 自動点灯装置の設置	本社・西南 工場長 下澤専務
ガソリン使用量削減 軽油使用量削減	4846 ℓ 8841 ℓ	1) 輸送経路の改善 2) エンジンオイルの定期交換 3) 法定速度遵守 4) 空車回送時に一声運動 中期目標 5) 車輛購入時には省エネ型への導入	市川・沖 各運転手
灯油使用量削減 プロパンガス使用量削減	6091 ℓ 142 kg	1) 暖房時、室外気の流入防止対策 2) 給湯器の温度を高くしすぎない	上條 唐沢
事業系一般廃棄物排出量削減	注視・測定 kg { 前年度 1292 kg	1) 製品端材をコピー紙に使用 2) コピー紙裏紙使用	各現場 事務
産業廃棄物排出量削減	注視・測定 kg { 前年度 161460 kg	1) 廃棄物の分別徹底 2) マニフェスト管理徹底 3) 再使用・再利用・節約に心掛ける 4) 資材の再利用、リサイクル化 1) 段ボール、白上質紙完全分別 2) 古紙100%リサイクル 3) 上質紙100%リサイクル	大下 市川 各現場 上條
水資源の節約	379 m ³	1) 節水の呼び掛け 2) 水資源の有効活用	全員
社会貢献	月1回活動	社内外のクリーン活動	全員
グリーン購入	購入の都度	事務用品のグリーン製品の購入	
5Sによる作業時間の短縮化 5Sによる作業の効率化 5Sによる作業場所の拡充	5S活動	整理整頓をおもに毎月活動	全員
小集団活動による各現場の 問題点をなくし、作業効率UPにつなげる	月1回の会議	各課の代表者が集まり活動の報告 問題点があれば解決 生産性の向上になることを出しあう	各課代表
非常事態訓練			坪田
化学物質使用量の削減		環境対応製品への見直し SDSの管理	本社工場長 西南工場長
活動状況のチェック			上條

- (9) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果ならびに違反、訴訟等の有無法的義務を受ける主な環境関連法規制は次のとおりである

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
騒音規制法	敷地境界線上の騒音測定（コンプレッサー、プレス機）
振動規制法	敷地境界線上の騒音測定（コンプレッサー、プレス機）
廃掃法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ、金属くず、廃油）
消防法	危険物保管の指定数量以上の許可（灯油、潤滑油）
フロン排出抑制法	3か月ごとの簡易点検（エアコン、エアードライヤー）

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制は遵守されていました。なお、違反、訴訟等も過去5年間ありません。

全体の評価と見直し

- (10) 代表者による全体の評価と見直し

① 全体的な評価

エコアクション21の取組みが始まって15年が経過した。
 エコアクションを続けてきている中で、エコ意識は社員全員で共有し毎日の活動としてできている。
 新型コロナウイルスの影響を受け、思うようにならない1年だった。仕事量の落ち込みが激しく、例年になくいろいろなことを考えさせられた。環境経営実績の二酸化炭素排出量は目標達成しているが、仕事量が減少したことにより排出量が減ったと考えられる。
 原単位目標は目標達成していないので次年度は達成する努力が必要である。

今事業年度も5S活動に力を入れてきた。
 毎月1回の小集団活動で出された問題点や改善点などを見直していく中で生産性の向上を今年度も継続して行く。
 5S活動から環境経営を良くしていくことが引き続きの目標である。
 職場環境が良くなることにより業務の効率も改善され”時間のエコ”につなげていくことも大切である。

② 個別評価

活動計画の目標値はすべて達成した。
 先にも書いた通り二酸化炭素排出量原単位は目標達成できていないので生産性を上げる努力をより一層していかなければならない。

次年度はSDGsの取り組みも環境経営計画のなかに取り入れ、社員教育など活動をしてほしい。